「地元高校へ行こう」発信中

進学率7割以上…丹波篠山市教委、回復目指す

丹波篠山市教育委員会は、地元にある県立高校への進学を目指す市内の中学生を増やそうと、「丹波篠山の高校へ行こう2022」キャンペーンを展開している。定員割れの高校もあり、ポスターや市広報などで各校の魅力をPR。通学しやすいよう、バス会社と協力して路線バスのルート変更や増便も計画している。

丹波篠山市には篠山鳳鳴、篠山産業、篠山東雲の三つの県立高校がある。普通科のほか、機械工学や電気、農業などを学べるコースがあり、部活動も盛んだ。だが、2021年度の一般入試の倍率は篠山鳳鳴が0・59倍、篠山産業が0・67～0・95倍、篠山東雲が0・48倍と、いずれも1倍を下回った。

市教委によると、以前は7割以上の中学生が市内の3校に進学していたが、20年度は54・5％にとどまっているという。特色のある高校は市の大きな魅力だが、定員割れが続けば存続が危うくなると市教委は危機感を持ち、キャンペーンを始めた。

三つの高校の教諭が中学校に出向いて高校の様子や教育内容などを紹介。各校の生徒が登場するポスターのキャッチコピーは「高校行って何がしたい？それ、丹波篠山でできるで！」。中学校や公共施設、JR篠山口駅、路線バスなどで掲示する。市広報でも在校生や卒業生に登場してもらい、各校の魅力をPRした。このほか、各校に30万円ずつを支給し、動画やパンフレットでの発信に役立ててもらった。

地元の高校の魅力をアピールするポスター＝丹波篠山市提供

在校生もPR 路線バスも見直し中

「交通の便が悪く通学しにくい」との意見もあり、市内で路線バスを運行する神姫グリーンバスと協力。ルートを高校を経由するように変えたり乗り換えをしやすくしたり、下校時の便を増やしたりする計画だ。4月から導入している路線バスの上限運賃制度を使えば定期券より安く通学できるという。

教育長は「中学生の市内高校への進学を7～8割に戻せないか、簡単ではないができることをやっていきたい」と話した。（前田智）

朝日新聞
2021年12月22日